

環境保健センター試験研究計画書

番号	R4-3	課題名	児島湖の水質改善に向けた難分解性有機物等の実態把握に関する研究					
期間	R4～6年度	担当部課室	環境科学部 水質科					
課題設定の背景	<p>1 政策上の位置付け 湖沼水質保全特別措置法に基づく湖沼水質保全計画（第8期）において、難分解性有機物の実態調査が掲げられる予定である。 また、第3次晴れの国おかやま生き活きプランに掲げる水、大気、土壌などの保全対策の推進及び岡山県環境基本計画に掲げる児島湖水質保全対策の推進に資するものである。</p> <p>2 県民や社会のニーズの状況 児島湖のCODは、これまでの各種施策により改善傾向にあるが、未だ環境基準を達成していない上、近年は改善が低調になっている。また、他の湖沼では、環境基準未達成の大きな要因は難分解性CODであると指摘されているが、児島湖での知見は乏しい。湖内及び流入河川等での難分解性有機物の実態を把握することは、今後の行政施策の検討において必要である。</p> <p>3 県が直接取り組む理由 難分解性有機物及び難分解性COD（以下「難分解性有機物等」という。）の分析において重要な分解性試験は、公定法がないため、詳細な条件等を検討しつつ臨機応変に研究を進めていく必要がある。また、分析結果だけでなく研究を通じて得られる知見が行政施策の一助となることから、民間分析機関ではなく当センターで行うことが最も効率的・効果的である。</p> <p>4 事業の緊要性 児島湖のCODは、5年を超える期間で可及的速やかに環境基準を達成するよう昭和46年に類型指定されたが、未だ環境基準を達成していない上、近年は改善が低調になっている。</p>							
	試験研究の概要	<p>1 目標 ・難分解性有機物等の分析方法を検討し、児島湖に適した調査方法を確立する。 ・上記方法を用いて児島湖及び流入河川等の難分解性有機物等の実態を把握し、児島湖に流入する難分解性有機物等の発生源の推定を行うことで、児島湖浄化施策の立案に資する。</p> <p>2 実施内容 ・難分解性有機物等の分析方法の検討 ・児島湖及び流入河川等における実態調査、調査結果の解析</p> <p>3 技術の新規性・独創性 これまで児島湖における難分解性有機物等の詳細な調査は行われていない。</p> <p>4 実現可能性・難易度 実現可能性：中 難易度：中</p> <p>5 実施体制 0.5名</p>						
		成果の活用・発展性	<p>1 活用可能性 調査研究で得られた成果は、環境保全推進のための啓発活動等に活用できる可能性がある。</p> <p>2 普及方策 年報掲載等</p> <p>3 成果の発展可能性 児島湖の特性をより明確にすることで、児島湖に係るCODの環境基準達成に向けた水質改善施策の検討の一助となる。</p>					
			実施計画	実施内容	年度	R4	R5	R6
分析方法の検討及び予備試験					■			
児島湖等における実態調査				■	■	■		
調査結果の解析					■			
計画事業費		332		332	332	996		
一般財源		332		332	332	996		
外部資金等		0		0	0	0		
人件費(常勤職員)		4,000	4,000	4,000	12,000			
総事業コスト		4,332	4,332	4,332	12,996			